

活性汚泥運転ワンポイント技術講座

***** 分解速度を測定するとここまでわかる *****

No.72 : 高負荷処理後の活性汚泥の管理①

ビール廃水や清涼飲料廃水の処理では、前段でメタン醗酵処理を行い、その処理水を活性汚泥処理するフローが一般的です。メタン醗酵に限らず、活性汚泥の前段に高負荷処理装置（嫌気処理、生物膜など）において、活性汚泥を仕上げ処理に使うフローにおける、活性汚泥側からみた管理ポイントを解説します。

活性汚泥側からみると、前段の高負荷処理装置の調子が悪い場合は、過大な BOD が流入し、活性汚泥は負荷オーバー状態で、処理不良や、沈殿槽での汚泥浮上などのトラブルとなり、逆に高負荷処理装置の処理が過剰になる場合は、活性汚泥には食べ残しの不味い餌（分解速度の遅い成分）ばかりとなり、活性汚泥は栄養失調による活性低下トラブルとなります。

